

シンポジウム「地域における冬季スポーツ競技力向上システム」

第2部 地域における冬季スポーツ競技力向上システム

シンポジスト①

岸 一成（新潟県スキー連盟競技本部クロスカントリー部長）

●経 歴

*新潟県長岡市出身

*小千谷高校～日本体育大学体育学部体育学科卒

●実 績

*自分の最高成績

‘82 インターハイ男子リレー20位（高校3年） 大学時代はマネージャー

*指導歴

・‘87～ ‘90 安塚高校松之山分校

‘89 魚沼インターハイ 男子 10KmC 10位

‘90 魚沼国体 少年男子リレー 優勝

・‘91～ ‘95 堀之内高校

‘92 インターハイ・ノルディックコンバインド優勝 大竹太志

（専大～北野建設：長野五輪代表）

・‘96～ 八海高校

‘97 インターハイ男子 10KmC・15KmF 3位 松井健太（亜大：世界ジュニア）

‘98 インターハイ男子 15KmF 3位 上村大明（早大：世界ジュニア）

‘99 インターハイ女子 5KmC 優勝 富沢幸絵（日体大：ユニバ）

‘00 妙高インターハイ男子リレー 優勝 八木崇仁（早大：世界ジュニア）

‘01 インターハイ男子リレー3位・国体優勝 桑原慎太郎

（日大：SAJ フィンランド遠征）

‘02 インターハイ男子 10KmC2位・男子リレー2位 桑原慎太郎（日大）

‘02 インターハイ男子 15KmF2位・男子リレー2位 星野雄一

（日体大：世界ジュニア）

‘04 インターハイ男子 15KmF8位・国体 7位 市川智也

（日体大：世界ジュニア 8位）

●競技力向上環境

当連盟クロスカントリー部の選手強化・育成システムは二十数年前に確立され、指導方法・事業等の評価や分析・修正を繰り返しながら現在に至っている。そのシステムの中心は中学生～高校生の選手強化であり、特徴としては県スキー連盟（県連）とその下部組織（地区協議会）・関係団体（高体連・中体連）の連携である。「優秀選手」・・・国体候補（成年・高校生Aランク）および次期国体候補（中学生Aランク）は「県連」強化指定選手として強化し、「有望選手」・・・高校生のBランク・中学生のA/Bランクは「地区協議会」強化指定選手として育成・強化。高体連ではインターハイを目標に、B/Cランクの選手を「高体連」強化指定選手として育成・強化し、それぞれの組織・団体が個々や合同で事業（練習会・合宿）を実施している。そして、多くのコーチがそれぞれの組織・団体を掛け持ちし、コーチ間の情報伝達や意見交換も容易である。

また、小学生の発掘・育成に関しては市・郡内小学生大会とは別に、地区協議会がジュニア選手権や地区学童親善大会を主催し、その中で有望選手を発掘している。地域ジュニア育成団体はそれらの大会を目指し積極的に活動し、小学生の動機付けに効果を上げていると思われる。

○トレーニング内容・方法

トレーニングに関しては、冬季スポーツの特徴である年間の約半分のオフシーズンに、ローラースキー等を用いていかにスキーに近い動作をしながら体力を向上できるか、また、出来るだけ多くの雪上スキートレーニングができるかが大きな目標となる。したがって、強化事業実施の最重要課題はトレーニング環境の設定（合宿地の選定）である。現在、実施時期やトレーニング目的に応じた合宿地は定着しており、大きなトレーニング効果が認められている。

トレーニング方法は '95年SAJがフィンランド人コーチを長野五輪対策として招聘した際、各県連にフィンランド式の科学的なトレーニング方法が伝達された。本県も '95～ '96年フィンランド人コーチが長期滞在し、強化事業において直接選手を指導した。その2年間で当連盟も具体的な指導方法を学び、現在もその方法を基本としながら、本県選手に適す方法を試行錯誤している。また、体力測定等の医科学的サポートもその頃から導入し、効果を上げている。

○競技力向上システムと社会的問題

このような競技力向上システムにより、先輩諸氏が築き上げた「スキー王国新潟」の名に恥じぬ安定した競技力を維持できたと考えられる。しかし、競技力を維持してはいるものの、2000年を過ぎた頃より競技人口、特にジュニア選手の減少傾向がみられるようになった。子どもの数自体の減少、燃え尽き症候群、不景気による保護者の経済的負担、高校・大学受験、地域の専門的指導者減少等々様々な要因があるが、競技力向上の最低条件として競技人口の確保が必要との議論がされるようになった。

○競技力向上システムの修正

2009新潟国体に向け更に競技力を向上させるためには、今までのクロスカントリー部組織を継承させるとともに、その機能を充実・発展させる必要があった。総合優勝を逃し、3位に終わった '02年2月の新潟「妙高」国体を終えた直後の5月、中学生～高校生の選手強化を中心に構成されていた組織を基本に、既存の運営委員会の中にジュニア選手の発掘・育成や指導者養成に対応

するジュニア育成小委員会、クロスカントリースキーの普及に対応する普及検定小委員会、冬季常設スキーコースを設置している拠点地域でのトレーニング環境整備や大会運営等に対応する大会運営小委員会の設置、さらに選手強化事業を効果的に進めるための強化委員会の整備を行った。

既に拠点地域にはコース環境等は整備され、その地域を中心に多くのジュニア育成団体が積極的に活動している。そして、それぞれのジュニア育成団体の努力により、他県よりジュニア選手の減少は緩やかである。しかし、2009国体への競技力向上とその後の高い競技力維持のためには、各年齢期で最高の成績をあげることにとらわれずに、長期的・計画的に選手を育成するという観点から、今まで以上に当連盟クロスカントリー部と地域ジュニア育成団体や地域のスキー協会（クラブ）、学校部活動、企業が連携を強化していくことが必要であった。ジュニア育成小委員会が中心になり「ジュニアからの一貫指導体制の確立」を目標にコーチサミット・指導者研修会・実技講習会を定期的実施した。まだまだ、体制作りには至っていないが、基本理念やジュニア層の指導方法等について県内の多くのジュニア指導者には浸透してきたと思われる。また、地域ジュニア指導者からの要望が多かった指導マニュアル「クロスカントリースキー ジュニア期の指導について」（仮称）を来年度発行に向けて現在編集中である。

強化体制については、選手強化事業をより効果的に進めるためにコーチを増員し、強化委員会内の役割分担・責任者の明確化を行った。また、ここ十年間で優秀な指導者が教員として採用され、中学校・高校の拠点校に配置され指導成果を上げている。しかし、会社員や自営業のコーチが不景気等の影響により強化事業に参加できず、教員には大きな負担となっている状況もある。

シンポジウム「地域における冬季スポーツ競技力向上システム」

第2部 地域における冬季スポーツ競技力向上システム

シンポジスト②

平井俊雄（盛田スポーツ振興財団事務局長）

●盛田スポーツ振興財団沿革

○平成5年（1993年）10月22日

財団法人 盛田スポーツ振興財団として旧新井市（現妙高市）に設立

○平成8年（1995年）4月

妙高市上中に事務所を移転し、現在にいたる。

●主な選手

○皆川 賢太郎（現在全日本ナショナルチーム）

長野オリンピック SL=21位 GS=29位

ソルトレイクオリンピック SL=DF

トリノオリンピック SL=4位

○山川 純子

長野オリンピック SL=20位 GS=29位 複合=16位

○池田 和子

長野オリンピック SL=17位 GS=25位

○星 瑞枝（現在全日本ナショナルチーム）

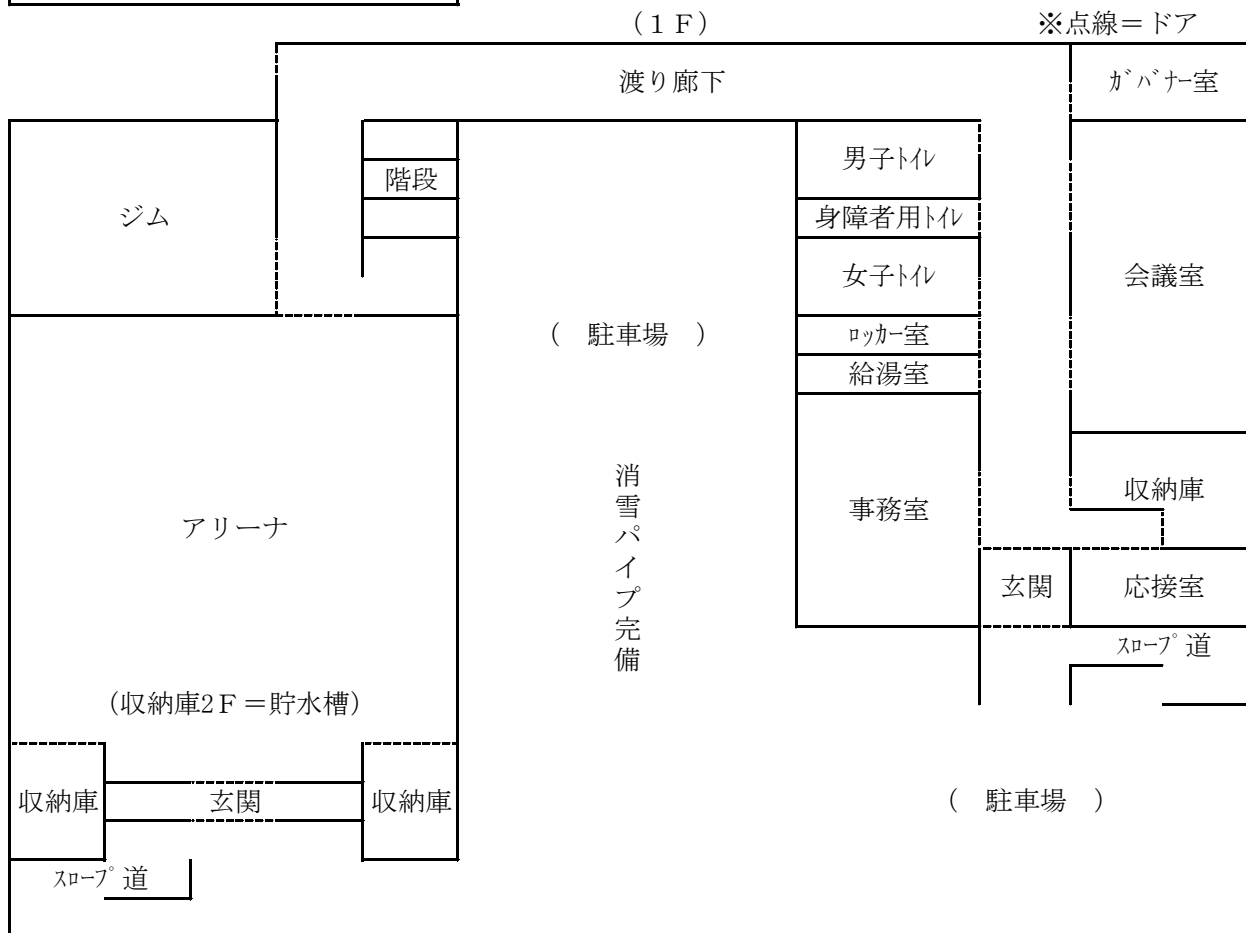
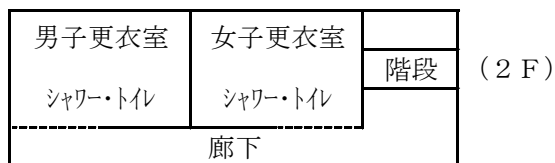
トリノオリンピック SL=27位

○関塚 真美（現在全日本ナショナルチーム）

トリノオリンピック SL=38位

財団法人 盛田スポーツ振興財団 《 事務所棟・記念体育館概要 》

- 1 所在地 〒944-0052 新潟県妙高市上中 205-1 mail mspf@crux.ocn.ne.jp
TEL 0255-73-8202 FAX 0255-72-7627
- 2 用地 (1) 建物及び駐車場敷地面積 = 2,941㎡
(2) その他隣接荒地面積 = 2,959㎡
- 3 建物構造 鉄骨・鉄筋コンクリート
- 4 建物面積 (1) 事務所棟 = 313.12㎡
(2) 体育館1F = 668.96㎡
(3) 体育館2F = 147.76㎡
- 5 設備 (1) 事務所棟 = 事務室 応接室 会議室 男女トイレ ガバナー室
身障者用トイレ ロッカー室 給湯室 収納庫 冷暖房
(2) 体育館1F = アリーナ (バレーコート1面 or バトミントン2面)
ジム (20機種 冷暖房 監視カメラ) 収納庫
(3) 体育館2F = 男女更衣室 シャワー トイレ 冷暖房
- 6 外構 駐車場 = 駐車可能台数-30台 水銀灯



シンポジウム「地域における冬季スポーツ競技力向上システム」

第2部 地域における冬季スポーツ競技力向上システム

シンポジスト③

山谷 剛（チームアルビレックス新潟社長）

●経 歴

○平成2年3月 新潟コンピュータ専門学校 卒業

○平成2年4月 新潟総合学院 入社

○平成17年10月 新潟総合学院 退社

○在籍中 新潟コンピュータ専門学校 アップルスポーツカレッジ NSG就職推進部

全日本ウィンタースポーツ専門学校に勤務

○平成17年11月 株式会社 チームアルビレックス設立 取締役就任

○平成18年8月 代表取締役就任

●実 績

○チームアルビレックス新潟

所属選手 スキー選手10名、スノーボード選手19名 合計29名



●競技力向上環境

チームアルビレックス新潟は創立4年を迎えました。

チームの所在地は新潟県妙高市の全日本ウィンタースポーツ専門学校の中にあります。

所属選手は個々に練習をしており、雪上ではナショナルチームの選手は専門の指導者が、それ以外の選手は、マテリアルメーカーのキャンプ等に参加し、スノーボード選手は選手同士で指導を受けています。

オフシーズンは全日本ウィンタースポーツ専門学校の施設を使っでの練習や県外に在住している選手は住居近くの民間のトレーニング施設で練習をしています。

トレーニングプログラムなどは契約している、コンディショニングトレーナーから提供を受けています。

定期的に所属選手が子供達やアスリートを目指す人達を指導して、育成するシステム作りを行なうことも使命と考えています。

チームアルビレックス新潟 概要図

